

コロンビアの最新動向(2月16日~2月29日)

I. 政治・経済

1. 公定歩合を9.75%に引き上げ

- 2月22日、中銀は公定歩合を0.25%引き上げ9.75%とする旨発表した。
- 中銀は、米ドルとの金利差が投機的資本流入を促し、ペソ高を引き起こすとして、2007年12月以降は利上げを見送る姿勢をみせていた。
- アナリストは、インフレ懸念が続くこと等から、今回の利上げを行ったと分析している。

II. 外交

1. カナダとのFTA交渉は終盤へ

- 2月19日、カナダのベルニエ外相はコロンビア公式訪問を終え、コロンビアの和平に対する努力を賞賛し、FTA締結は間近であると述べた。
- ベルニエ外相はコロンビア訪問中、ウリベ大統領、アラウッホ外相等と会談し、コロンビアの和平協力とFTAについて話し合いを行った。

2. ATPDEA、10ヶ月延長へ

- 2月29日、ブッシュ大統領の署名によりATPDEA(アンデス特惠関税麻薬取締協定)の10ヶ月延長手続きが終了した。
- スーザン・シュワブ米国通商代表は、今回の延長は、民主党反対派の声を弱める時間稼ぎとなるだろうと述べた。
- 一方、ポールソン米財務長官は、コロンビアとのFTA実現によって、雇用の増加だけでなく、米産業界がコロンビア市場に参入する足がかりになると述べ、今後コロンビア・パナマ各国とのFTA批准に向けて、積極的に働きかけていく姿勢を見せた。

III. 石油その他の資源セクター

1. Ecopetrol、600億ドルの事業計画を発表

- 2月21日、Ecopetrolは2015年までの事業計画を発表、今後8年間で600億ドルを投資する計画。
- E&P部門では、380億ドルを投じて、2015年までに390万バレルの埋蔵量を新たに追加する計画。毎年平均28件の探鉱を国内で行い(2007年は13件)、また海外では年平均8件の探鉱を行う。生産量(原油換算)は、2015年までに100万b/dに達する見通し。

- 生産部門、石油化学部門では各々年 11%、41%の能力拡大を目指す。また、重質油については、輸送設備の拡大により、現在の 10 万 b/d から 20-32 万 b/d までの生産能力拡大を目指す。またバイオ燃料の売上げは年 12%の成長を計画。
- 資金調達については自己資金、新規株式公開による他、借り入れも合わせて行う計画。

2. 2007 年、Ecopetrolは 53%の増益

- 2 月 29 日、Ecopetrol は 2007 年の決算を発表した。同年は 5.18 兆ペソ(28.2 億ドル)の経常利益を計上、対前期比で 53%の増益となった。営業利益は対前期比 21%増加の 121.4 億ドルとなった。
- 総生産量は 39.9 万 b/d(原油のみでは 32.6 万 boe/d)で、前年に比べ 1.4 万バレル増加した。70%はコロンビア国内、30%は海外で保有する埋蔵量に由来するもの。2008 年は 38 億ドルを投じ、生産を 42.5 万 b/d に拡大する計画。
- Ecopetrol は経常利益の 90%に相当する 4.65 兆ペソ(25.3 億ドル)を株主に配当する予定。

3. 2007 年、EPMは 12.6%の増益

- 2 月 26 日、EPM(メデジン市公益事業会社)は 2007 年の決算を発表した。経常利益は 1.11 兆ペソ(5.9 億ドル)となり、対前期比で 12.6%の増益となった。

以上

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。